

# 神田川

作詞：喜多條忠 作曲：南こうせつ

貴男はもう忘れたかしら 赤い手拭い  
マフラーにして 二人で行った  
横丁の風呂屋 一緒に出ようねって  
言ったのにいつも 私が待たされた  
洗い髪が しんまで冷えて  
小さな石鹸 カタカタ鳴った  
貴男は 私の体を抱いて  
冷たいねって 言ったのよ  
若かったあの頃 何も恐くなかった  
ただ貴男のやさしさが 恐かった  
貴男はもうすてたのかしら 二十四色の  
クレパス買って 貴男が描いた  
私の似顔絵 うまく描いてねって  
言ったのにいつも ちっとも似てないの  
窓の下には神田川 三畳一間の小さな下宿  
貴男は 私の指先見つめ  
悲しいかいて 聞いたのよ  
若かったあの頃 何も恐くなかった  
ただ貴男のやさしさが 恐かった